

主題（３）「生活協同組合と地方政府（千葉県・野田市）の地域福祉事業における５つの協働の実践事例」

発表者：Representative of Palsystem Consumers Cooperative Chiba

主旨：生活協同組合パルシステム千葉は、食品の安全性や生活環境悪化に対する不安を、自分たちの活動で何とか改善しようと、1975年設立当初から続けてきました。ここに来て多くの組合員から、生協の活動の蓄積と資源を活用して現在の日本社会が必要としている、例えば社会福祉の取組が出来ないか、との声が上がリその分野の活動を始めました。その新たな福祉の取り組みを報告致します。

要旨：

①園芸福祉 Farm 「おーい船形」の実践

この福祉を目的にした Farm は千葉県・野田市政府と市民社会の様々な団体の合意に基づいて組織された成功事例である。消費生活協同組合、身体障害者団体連合会、社会福祉協議会、非営利団体（NPO）支援センターなど多くの団体が参画し、障害者が働き学ぶ農園を実現した。

②コミュニティ ルーム・シルバーサロン「はつらつ・you me」の実践

このサロンは、0歳~3歳の子供を預かる「子育てサロン」であると同時に高齢者が憩いの場になっている「高齢者のサロン」である。千葉県・野田市の地方政府と消費生活協同組合の協定に基づいて coop の店舗内に設置されている。

③「夕食の宅配」システムの創造と実践

高齢者や多忙な家庭のために『安否確認』サービスを含めた「夕食宅配」システムを coop の福祉事業として実行しており、3000食/day 供給している。

④野田市地方政府の「ケア・アクセス：おとめどおり・デイサービス施設」

要介護者、要支援の老人の介護（食事・入浴・排泄）および機能訓練を行う施設を地域の coop との協働で実現した。

⑤移動販売車「まごころ便」

高齢者、障害者など買い物が困難な人々のために地方政府と coop が協働して移動販売車を走らせている。3コース、35のステーション/week を実現。